

第1回小郡市協働のまちづくり会議 要録

日時：平成29年8月28日（月） 10時00分～12時00分

会場：小郡市役所 北別館2階 大会議室

- 次第：1. 開会あいさつ
 2. 市長あいさつ
 3. 自己紹介
 4. 議題
 (1) 平成28年度まちづくり会議からの経過について
 ・「共働」のまちづくりについて
 (2) まちづくり市民ワークショップ「まちがたり」報告
 5. その他

【開会】	
1. 開会あいさつ 2. 市長あいさつ 3. 自己紹介	
4. 議題 (1) 平成28年度まちづくり会議からの経過について	
事務局	(1) 平成28年度まちづくり会議からの経過について ・「共働」のまちづくりについて 事務局より説明
委員	「協働のまちづくり」を見直して「共働きの共働のまちづくり」に移ることは、どういうことなのか、どう変わるのか不透明な部分があるが。
委員	「共働き」の「共働」に変える理由がよくわからない。新市長の選挙公約の一つとして「共働」に変えることがあがっていたが、仕組の大きな変更もないし、これまでの地域と行政の関わりも変わらないので、必要はないと思う。
委員	「協働」も「共働」も最終的に目指す姿が同じならば、変えることでどういった姿を目指していくのか、そこが明らかになり、会議の委員も理解しなければ、スタートできない。
委員	私も同様に「共働き」の「共働」に変えることで、どのような意味があるのかなと思った。地域の住民の中でも、「なぜ変わるのか」という意見が上がっている。
委員	私自身、「協働のまちづくり」に携わってきた感想として、変える必要はないと思っている。ただし、今までの方法で課題となっている部分は変えていく必要があるが、良い部分は継続していくべきだ

	と思う。
委員	これまでの「協働」との対比があった上で新たな「共働」の考え方が提案されると思っていた。それを軸にしてこれまでの「協働のまちづくり」を総括しろということならば理解できるが、はっきりしない状況で総括していいのか疑問がある。
事務局	<p>市長が考える「共働き」の「共働」は、市民との対話を重視して、行政と地域の対等なパートナーシップに基づいて、共に地域課題の解決に取り組んでいくという方針。その中で現在は、協働のまちづくり組織に行政の依頼に基づいて設置されている「必置部会」があることや、運営面で行政の関与が強いことを問題と捉えている。今後は、地域が主体となって課題解決にあたっている取組に対して、市が支援していくという仕組みづくりを目指していきたいと考えている。</p> <p>現在、「共働のまちづくり」進める上での明確なビジョンがない状態であるが、これから地域の皆様と協議しながら、必要なまちづくり組織の在り方や、「共働のまちづくり」が目指すべき姿を検討する作業が始まっていくと思う。</p>
委員	市長が目指す「共働きの共働」に向かって進めていくということか。
事務局	今後、最上位計画である総合振興計画にも、「共働きの共働」となるような内容が盛り込まれることになると思う。
委員	<p>そもそも造語であるので色々な意味合いを市町村でつけているが、一般的には「協働」という言葉が多く使われている。「協働」は協力を求めるということから、市役所と市民が上下関係になっているように感じられる。それを懸念して、市役所と横並びの対等な関係であるニュアンスが強い「共働」を使う市町村が増えてきている。説明を聞いてみると、どちらも対等な立場で、みんなで一緒に汗を流し努力していこうという意味合いは変わらない。小郡市については、ここで一度立ち止まって「共働」について議論するタイミングになっているのが現状だと思う。</p> <p>ただし、文字を変えるにあたっては、行政内部や市民に対してそれなりの理由を伝えていく必要があると思う。</p>
委員	市長が、これまでのまちづくりの中にある、市民のやらされ感や行政主導の部分を考慮して「協働」から「共働」に変えていきたいと思っていることには理解できるが、行政の支援がなければスタートしない。
委員	行政が進めた事業なので、行政のリーダーシップは必要だと思う。福岡市は今年の4月から市長のトップダウンで「共働」から、NPO・企業・教育機関なども一緒に関わっていく「共創」に移行している。しかし、住民の側からすると、まずやらないといけないの

	<p>は地域課題の解決なので、あまり言葉にとらわれてはいない。</p>
委員	<p>以前作られた「協働のまちづくり実施計画」には、「協働」の定義や、「協働」の基本となる考え方など細かく記載されている。その言葉を変えるということは、新たな言葉の定義づけを明確にしないと変えることはできないと思う。造語ならば、なおのことその定義が必要で、それから浸透させていかなければならない。</p> <p>「共働」の定義づけはこの会議で行うのか。</p>
委員	<p>「共働きの共働」は、行政と市民が対等な立場で、「協力の協働」は行政と市民が上下関係であり、行政が市民に押し付けたように捉えられるとのことだが、地域の問題は地域が自助努力で問題を提起して解決に向かって取組んでいく、それに対して行政が支援をしていくという形が自助・共助・公助の順番であり、「協働」の形であると思う。</p> <p>議会報告の市長答弁をみても、「協働」と「共働」の違いは明確に示されていない。これまでとこれからの違いは明らかにすべきだ。</p> <p>また、「共働」にするのは大変な作業と経費が必要になる上、解釈の話だけでこれだけの混乱が生じている。これまでの取組の中で必置部会の件など、課題を見直していくのは必要なことだが、「協働」から変える必要はない。</p>
委員	<p>この会議で「共働」の定義を行わないということなら、行政のほうから「共働」の趣旨と会議の役割を提示してもらわないと、イメージがわからないまま議論するのは難しい。</p> <p>「協働」のまちづくりについての見直しや棚卸をするにはいい機会ともとれるが、委員会の趣旨や進め方を明らかにしないと動きがとれない。</p>
委員	<p>現在この会議は、次に目指す先を求めていくわけではなく、これまでの総括をするのが目的となっている。</p> <p>昨年度はこの会議で条例案を作ったが、必要なことはしっかりと盛り込まれており、「協働」から「共働」に変わるからということで反故にされるものではないと思う。</p> <p>私は協働のまちづくり推進連絡会議の代表を務めているが、それについても今のところ目的が明らかになっていない。今のところこれまでどおり進めてくれということだが、会議の方向性が明らかにならない中で、会議を重ねていくことには疑問がある。</p> <p>また、議会の市長答弁によってはっきりしたことは、行政委嘱事務制度を残すこと、条例の制定を急がないこと、これまで以上に予算と権限を地域に委譲するという3つのこと。</p> <p>他の委員と同様に、方針が明らかでない中で進めていくことに疑問を感じる。</p>

委員	<p>極端な考え方の一つとして、市長が変わり、新しい考え方によっていくのならば、この会議の委員は全て交代するべきではないかと思う。我々は「協力の協働」で進めてきたので、急には切り替えられないし、混乱が生じる。</p> <p>「共働きの共働」で、共に働くなれば、市民と行政が同じ力を持っていないと共にはやれない。「協力の協働」は力を合わせてというイメージをもっている。行政と市民は立場が違うので、行政主導で市民が協力していく中で力を発揮していくということに理解していた。</p> <p>また、地域の現状として、地域内にたくさんの委員会や団体があり、力が分散されている。まちづくり組織に団体や人材が集中する仕組みがあればいいが、バラバラな状態なので、共に働いていくのは難しい状況だと思う。</p>
委員	<p>この状況ならば、市長と我々で意見交換するしかない。この会議は主に住民によって組織されている会議体で、住民参加の一つであるといえるので、できないといことはあり得ない。</p>
委員	<p>新副市長が大野城市のコミュニティ政策で大きな成果を上げた人物ということならば、副市長がこれからまちづくりに関わってくることになるのではないかと。</p>
事務局	<p>副市長とのヒアリングは済んでいるが、具体的なこれからの方針については指示を受けていない。当面は、先進地を視察し情報を収集するように指示されている。</p>
委員	<p>まちづくり会議の委員としては28年度に条例案を作成し、一つの仕事が終わったような感覚がある。私たちに、これまでの総括をしてほしいということなら、今後の方針が見えてこないと作業に移れない。</p>
委員	<p>何に基づいてこれまでの総括をするのか。条例もない中では、軸となるものがない。市長なり副市長から総括の軸を提供してもらえれば可能になるかもしれないと思う。</p>
委員	<p>まだ、市としての方針が見えていないのではないかと。</p> <p>また、条例の制定や方針の決定が先になることが想定される中で、我々の役割はこれまでの総括ということなら、役目は終わったということではないかと。</p>
委員	<p>今のところ二つの選択肢がある。一つは、「共働きのまちづくり」を進めていくので、この会議は役割を終えて、新しい会議体をつくる。もしくは、今後の方針の基軸を示した上で、会議を続けていく。その解決策として考えられるのは、市長ないし副市長と我々が話をする機会を設けることじゃないかと。</p>
事務局	<p>委員の皆さんの意見をふまえて、会議の在り方を検討したいと思うが、この場で私自身が判断することができないので、持ち帰らせ</p>

	てほしい。
委員	私の感覚では、この会議体の連携や意思が深まってきていると感じるので、この会議をなくすことは住民参加をなくすことにつながる。我々はパートナーシップの代表の組織として活動してきた。それに対して受け答えをするのが「共働」の基本ではないか。
委員	ようやく各校区のまちづくり協議会の歩みが進み始めた中で方針が変わるようなら大きな混乱が起こる。一度乱れたら相当な努力をしないと軌道修正できないし、信用がなくなる。必要に応じて徐々に見直していくのも一つの選択肢だと思う。
委員	私たちの校区でもこれからどうなるのかという声はあがっている。今は市から明確な方針がでていないので、これまで通り進めていこうという話をしている。
委員	これまで取組んできたことから意識を変えるのは、とても難しいし混乱を招く。そもそもこれまで五年の実績しかないのに変化をつけていくということは、それなりの覚悟と政策を持たないと進まない。ただし、こちらとしては「一緒に考えませんか。」という前向きな意思があるので、それをふまえて処遇を検討してほしい。
委員	昨年度の条例づくりに我々は真剣に取り組んだ。新しい考えのもとに、それに対して修正を求めたり、足りない部分を補っていくような指示は理解できるが、何も提示はない。 まだ方針ができていなくても、部分的でも考え方が示されれば、会議を前に進めることができる。このまま幕引きをするということならば、何回も会議を重ねる必要はない。
委員	我々は、「協働」について条例案の作成を含めてこれまで積み重ねてきたものがある。これに対して、不具合や問題点があるから「共働」を進めていくのだから、その視点や見直す点を明らかにして進めていくのならば、会議として協力することができる。そのうえで会議を終わらせるか、新たな役割を与えるのか検討してほしい。その過程で、思いを共有するためにも市長・副市長と意見交換の場を設けるといふことでいかがか。
委員	まちづくり協議会が作られたときは、何の方向性をみえないままだったが、色々理屈をつけながら今まで進めてきた。「協働」から「共働」に変わるならば、ある程度の方向性が必要だと思う。
委員	三年前にPTAの役員になってから初めて「協働のまちづくり」に関わることになった。最近、ようやくしっくりきたところなので、ここで文字が変わるとどうかなと思う。
委員	学校教育の立場からすれば、全国的に子どもたちを学校の中だけではなく地域や行政と共に育てていきたいと思いますという流れがある。本校では小郡市で最も早くコミュニティスクールに取り組んでいる。今度学習指導要領が改訂されるが、その最も目玉となる言葉が

	<p>「連携と協働」。私は、同じ目標に向かって協力しあって進むことが「協働」という認識をしているので、「共働」となると概念が変わってしまう。学校教育においても「連携と協働」によって進めなければならないという状況なので変えるのはどうかと思う。</p> <p>また、何かを変えるときは成果と課題があってはじめて変わっていくものだと思うので、今の状況ではいかがかなと思う。</p>
(2) まちづくり市民ワークショップ「まちがたり」報告について	
事務局	<p>(2) まちづくり市民ワークショップ「まちがたり」の報告について</p> <p>事務局より説明</p>
委員	<p>小郡市では全ての校区でまちづくり協議会が作られている中で、次のステージに進む時期なのではないかと思う。このワークショップからは対話などをおしてつながっていくことが大切だということがわかった。特に、ワークショップをおして、Lineで友達になっているグループがあり、自分としてもこういうつながりの大切さを改めて実感することができた。</p>
5. その他	
第2回会議日程 11月頃実施予定	
【閉会】	